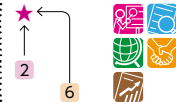


戦 略
1

社会は、國學院大學が持つ固有の価値を評価し、
学生・卒業生は、大学に誇りを持っている。



行動計画の
ストーリー

「國學院大學が持つ固有の価値」とは、創立130有余年間で培った有形・無形の価値をいう。それは、教育・研究の実績、伝統、人的ネットワーク、信頼性などの価値を意味し、未来に向け価値創造している姿が評価されている状態を目指す。また、学生や卒業生、教職員、保護者などの関係者が、國學院大學に誇りを持てるように各種施策を実行する。

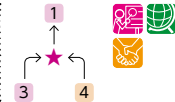
平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
各学部・大学院等各機関の強化				
校史および貴重史資料の整備と、それを活用した調査・研究・教育の推進				
学術資産の活用				
校史学術資産デジタルアーカイブ				
社会貢献・地域連携の強化				
地方出身学生の積極的受け入れ				
県人会制度の検討	県人会制度の運用			
院友(卒業生)と大学との連携強化				
評価指標				
●一般入試志願者数 25,018人(平成28年度実施)				
25,000人	26,000人	26,000人	26,500人	27,000人
●パブリシティ(Web、箱根駅伝関係を除く) 2,880件(平成28年度)				
2,920件	2,950件	2,980件	3,010件	3,080件
●学生満足度 70.6%(平成28年度)				
72.0%	74.0%	76.0%	78.0%	80%以上
●卒業生満足度 68.0%(平成28年度)				
70.0%	72.0%	74.0%	76.0%	80%以上
●卒業生アンケート回収率 11.9%(平成28年度)				
35%以上	35%以上	35%以上	35%以上	35%以上
●博物館来館者数 44,757人(平成27年度)				
60,000人	65,000人	70,000人	75,000人	80,000人

達成後の姿

國學院大學の歴史と伝統に培われた資産が継承され、その史資料に基づく教育と研究が展開されている。教育と研究の成果は、地域や社会に還元され、より良い社会の形成に寄与している。それらの営みが、本学の固有の価値として評価され、ブランド力が向上するとともに、偏差値による単純な価値基準ではない評価で本学を目指す受験生が増加し、在学生、卒業生は、大学への関わりを大切にしている。

戦 略
2

学生は、豊かな知(悩む力・考える力・
多様性を受け入れ生き抜く力)を身につけている。



行動計画の
ストーリー

「豊かな知」とは、知識の獲得ならびに、それを運用する能力であり、市民性と公共性、倫理観などを含むものとする。正課での学び、サークル活動やボランティア活動、また国際社会との関わりの中で、培われるものとする。入学から卒業までの一貫した教育と、ボランティアや留学、外国人学生とのコミュニケーション等の実践的な経験を主な取り組みとしている。

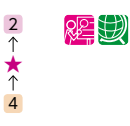
平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
各学部・大学院等における教学改革の推進				
教学ガイドラインの策定	教学ガイドラインに基づく教学マネジメントの推進			
共通教育プログラムの検証	改正共通教育プログラムの検討			実施
「みちのきち」プロジェクト	「本」のプロジェクト			
〈グローバル人材養成〉 制度の検証	運用			
海外派遣学生の増加に関する取り組みの推進				
K-STEP(Kokugakuin-Short-term Exchange Program)の拡大	海外日本研修プログラムの積極的な受け入れ			
ボランティア活動の推進				
東京オリンピック・パラリンピックへの積極的な参画				
就業力強化と就職の満足度向上に関する取り組みの推進				
評価指標 ●公務員就職者数 131人(平成27年度)				
150人	180人	200人	220人	250人
●教員就職者数(幼・小・中・高)	175人(平成27年度)			
190人	205人	220人	235人	250人
●ターゲット企業就職者数	68社／177名(平成27年度)			
75社／200名	85社／250名	90社／300名	95社／350名	100社／400名以上
●一人あたりの年間読書数	7冊(平成28年度)			
20冊	25冊	30冊	40冊	50冊
●ボランティア参加者数	540名(平成27年度)			
1,000名	2,000名	4,000名	5,000名	5,500名(全学生の60%以上)
●オリンピック関連ボランティアへの参加者数	新規			
100名	200名	500名	800名	—
●海外で学ぶ学生数	171人(平成28年度)			
250名	300名	350名	400名	500名(全学年の5%以上)
●TOEIC受験率(3年次終了まで)	新規			
90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	TOEIC受験者の30%が730点以上
●卒業生の就職満足度	69.2%(平成28年度)			
70%	72%	74%	76%	80%以上

達成後の姿

学生は、正課教育、課外活動、ボランティアおよび留学等により、専門的な知識だけではなく、市民性や公共性、汎用的な知識・技能などを獲得するとともに、それを運用することができ、多様化する社会で生き抜く力を身につけている。
大学は、学生がこのような姿になるために質の高い教育を行うとともに、積極的な支援を行う。また、その成果が可視化されている。これらの取り組みにより、就職についても、学生はより高い目標を設定するようになり、学生の希望に沿った就職が実現している。

戦略
3

学生は、日本人としての主体性を支える知識を備え、発信できる。



行動計画のストーリー

「グローバル」とは「ローカル」の集合体であり、多様性を尊重し、他者を理解することが真のグローバル化である。その一歩として、日本語・日本文化・神話等の日本と日本文化の知識を獲得させるための取り組みと、他文化との比較による日本文化の相対的な理解に関する取り組みを通して、日本の育んできた文化・精神性について学ぶ。

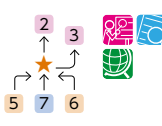
平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
教学ガイドラインの策定	教学ガイドラインに基づく教学マネジメントの推進			
共通教育プログラムの検証		改正共通教育プログラムの検討	実施	
共通教育科目 「古事記学」開講				
『古事記』入門書の製作		『古事記』入門書の授業導入		
『こども古事記』 編集開始	試用版のWeb公開と 模擬授業の実施	試用版に基づく模擬授業の実施/ Web公開と授業実践		
〈グローバル人材養成〉 制度の検証	運用			
海外派遣学生の増加に関する取り組みの推進				
K-STEPの拡大		海外日本研修プログラムの積極的な受け入れ		
評価指標				
● 國學院科目の履修者数(1年次生) 新規				
80%以上	80%以上	80%以上	80%以上	80%以上
● シチズンシップ教育科目の履修者数(1年次生) 新規				
50%以上	55%以上	60%以上	65%以上	70%以上
● 海外で学ぶ学生数 171名(平成28年度)				
250名	300名	350名	400名	500名(全学生の5%)
● TOEIC受験率(3年次終了まで) 新規				
90%以上	90%以上	90%以上	90%以上	TOEIC受験者の 30%が730点以上
● K-STEPでの私費留学生受け入れ数 新規				
—	—	平成28年度比 150%	—	在学中に海外の学生と 交流したことがある学生が 全学生の40%以上
● 海外日本研修プログラム受け入れ数 3件				
3件	4件	4件	5件	

達成後の姿

学生は、日本と日本文化に関する理解を深め、その理解に基づき異なる文化を尊重し、相対的に受容する態度が養われている。また、グローバル化する社会の中で、異なる文化を背景とする人とコミュニケーションをとるための知識・技能も獲得している。これらを通して、グローバル化する社会で活躍できる人材となっている。

戦略
4

人文・社会科学系分野の優れた研究成果が教育に反映され、教育の質保証がされている。



行動計画のストーリー

教育の質保証は、優れた研究成果が教育に反映されることによって担保される。組織的に研究の活性化を図り、その成果を3ポリシーに基づき、教育に適切に反映していく施策を展開する。また、3ポリシーに基づいたPDCAサイクルを不断に展開促進していくことによっても質保証を実現する。

平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
3ポリシーの検証体制の構築と3ポリシーの検証		新3ポリシー策定	新3ポリシーに基づく実施体制整備	カリキュラム改定
教育の内部質保証体制(自己点検・評価)の再構築		新体制の運用		
評価対象となる研究活動の活性化				
私立大学研究ブランディング事業(「古事記学」の推進拠点形成)の推進				後継事業の推進
私立大学研究ブランディング事業(「古事記学」の推進拠点形成)の自己点検・評価と外部評価の実施				
評価指標				
● 年間業績数 115件(平成26年度)				
150件以上	150件以上	150件以上	150件以上	5年間の業績総数1,000件以上
● 私立大学研究ブランディング事業に関する自己点検・評価と外部評価結果 新規				
外部評価に基づくプロセス評価				
● 3ポリシーの運用の適切性 新規				
自己点検・評価				
● 科学研究費採択件数 33件(平成28年度)				
38件	45件	54件	64件	70件
● FD(ファカルティ・ディベロップメント)研修参加率 新規				
100%	100%	100%	100%	100%

達成後の姿

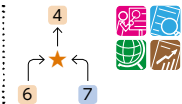
教員個人、学部、大学全体、それぞれで研究が活性化し、最新の研究成果が教育に反映されている。研究成果が教育に反映されることによって、教育活動全体の質が向上し、期待される人材が育成されている。

※3ポリシー(「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」)

戦略

5

優れた教育・研究システムが構築されている。



行動計画の
ストーリー

3ポリシーに基づく入学から卒業までの一貫した教育をはじめ、ポリシーに基づいた体制構築の検証や、成果を確認する一連のサイクルを整備する。カリキュラム・ポリシーと、教育課程、教育組織、教員業績などの整合性や、教育・研究支援システムの整備・各施設の充実も含め、不断の検証のもとに教育・研究活動を充実させているその過程が、「標」となることを目指す。

平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
教学ガイドラインの策定	教学ガイドラインに基づく教学マネジメントの推進			
「教職の國學院」の強化(教職支援体制の強化)				
学生ポートフォリオの再構築				
〈奨学金および顕彰制度の充実〉 検討	運用・推進			
〈グローバル人材養成〉 制度の検証	運用			
学部、学科別セメスター留学のための履修モデルおよびGO GLOBAL!ロールモデルの作成と充実				
学内の産官学連携事業に関する情報の集積と規程の整備		産官学連携拡大支援および推進		
教育・研究・学生支援システムの強化				
大学IRの推進				
教育・研究環境の整備				

評価指標

●教員就職者数(幼・小・中・高) 175人(平成27年度)

190人	205人	220人	235人	250人
●年間業績数 115件(平成26年度)				
150件以上	150件以上	150件以上	150件以上	5年間の業績総数1,000件以上
●学生ポートフォリオ利用率 新規				
—	100%	100%	100%	100%
●学生満足度 70.6%(平成28年度)				
72.0%	74.0%	76.0%	78.0%	80%以上
●卒業生満足度 68.0%(平成28年度)				
70.0%	72.0%	74.0%	76.0%	80%以上

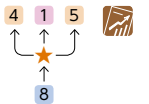
達成後の姿

教育面では、3つのポリシーに基づく学生の入学から卒業までの一貫した教育を支援する仕組みが、ハード面、ソフト面で整っている。研究面では、教員個人の研究をはじめとして、学部や大学全体における研究が活性化するような支援の仕組みが整っている。また、これら教育・研究を支援する仕組みが適切であるか、成果に結びついているか等を不断に検証し、常に改善・改革が行えるような点検・評価の仕組みが構築されている。

戦略

6

大学組織の役割が体系的に整理され、
スピード感あるガバナンスが遂行されている。



行動計画の
ストーリー

組織の役割を体系的に整理し、意思決定プロセスの見直しと適切な権限委譲によって、創造的な改革を視野に入れた重要な課題解決に注力できる体制を整える。

平成 29年度	平成 30年度	平成 31年度	平成 32年度	平成 33年度
附属・系列校および協定校を含めた大学と高校との教育連携強化				
高大接続改革(大学入学希望者学力評価テスト(仮称)等)への対応			新テスト活用推進と一般入試制度の再構築	
意思決定プロセスの見直しと職務権限の整理		権限委譲手続きの整備		
		関連規程改定		
学内委員会の整理・統合	学内委員会および業務のスリム化			
改組と新学部設置に関する検討				

評価指標

●諸規程の整備状況

—	—	ガバナンスに関する規程が整備されている	→
---	---	---------------------	---

●権限委譲の仕組みの構築状況

権限委譲の仕組みが構築されている	→
------------------	---

●組織に関する点検・評価結果 新規

自己点検・評価	→
---------	---

達成後の姿

学内の責任と権限について整理が行われるとともに、必要に応じて適切な権限委譲が行える仕組みが整えられて、学長のリーダーシップが十分に発揮できるようにガバナンスが強化されている。
学内の委員会の役割についての見直しが行われ、必要に応じて整理統合されている。学長のガバナンス強化と併せて、学内の意思決定スピードが向上している。
法人内においては、各教育機関の連携が強化され、法人としてのスケールメリットを活かした活動が実現されている。

戦略

7

教職員は、人文・社会科学系分野の教育研究業績等で社会から評価されている。

4

5

↑

★

8



行動計画のストーリー	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
評価対象となる教育・研究活動の活性化					
教育・研究活動等における評価指標の確立		評価指標による点検と評価			
科研費申請数および採択率向上のための学内支援策の充実					
URA(研究支援専門職)による研究推進支援体制の基盤整備			URAによる研究推進支援体制の充実		
私立大学研究ブランディング事業(「古事記学」の推進拠点形成)の推進					
学会・シンポジウムの主催と参加促進					
海外研究者の受け入れ促進					
評価指標					
●教育・研究活動の評価指標	新規				
—	目標値の設定	設定した目標による管理			
●年間業績数	115件(平成26年度)				
	150件以上	150件以上	150件以上	150件以上	5年間の業績総数1,000件以上
●科学研究費採択件数	33件(平成28年度)				
	38件	45件	54件	64件	70件
●海外研究者の受け入れ数(年間)	5名				
	5名以上	5名以上	5名以上	5名以上	5名以上
●シンポジウム主催数(年間)	新規				
	30回以上	30回以上	30回以上	30回以上	30回以上
達成後の姿	教職員は、学外の公益性の高い団体に積極的にに関わり、そこでの活動を通じて社会的な評価を獲得している。また、個人の活動に対する評価が、最終的に大学全体の評価につながっている。				

戦略

8

教職員は、21世紀研究教育計画を理解し、計画を支えるための能力を向上させるとともに、主体的に関わっている。

7

6

↑

★



行動計画のストーリー	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
理事長・学長による21世紀研究教育計画(第4次)の周知徹底					
URA(研究支援専門職)育成による研究推進支援体制の基盤整備			URAによる研究推進支援体制の充実		
育成する教職員像の確立		教職員組織の再検討			
組織的、体系的SDの検討と実施					
評価制度に関する検討と運用					
評価指標					
●21世紀研究教育計画関連事業数	新規				
—	—	50件	—	60件以上	
●経営方針明示度	56%(平成27年度・職員のみ)				
	100%	100%	100%	100%	100%
●研修満足度	21%(平成27年度)				
	40%	50%	80%	80%	80%以上
●SD(スタッフ・ディベロップメント)研修参加率	100%(平成28年度・職員のみ)				
	100%(職員のみ)	100%(全体)	100%(全体)	100%(全体)	100%(全体)
●FD(ファカルティ・ディベロップメント)研修参加率	新規				
	100%	100%	100%	100%	100%
達成後の姿	教職員は、本計画を十分に理解し、将来像達成に向けた取り組みに積極的に関与している。また、各施策の取り組みに必要な能力の向上に努め、大学としてもそれを組織的・体系的に育成、支援する仕組みを構築している。最終的に、本計画の取り組み成果を次期計画につなげることができている。				